



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月2日

上場会社名 クオールホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3034 URL <https://www.qolhd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 敬
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 白国 宏基 (TEL) 03-6430-9060
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	61,036	40.6	2,915	55.6	2,966	52.9	843	△16.6
2024年3月期第1四半期	43,403	7.0	1,873	13.0	1,940	10.2	1,010	0.9

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 1,436百万円(42.4%) 2024年3月期第1四半期 1,009百万円(0.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	22.59	—
2024年3月期第1四半期	27.22	—

(参考) EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)

2025年3月期第1四半期 4,837百万円 2024年3月期第1四半期 3,138百万円

のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

2025年3月期第1四半期 1,957百万円 2024年3月期第1四半期 1,848百万円

のれん償却前EPS(のれん償却前四半期純利益/期中平均株式数)

2025年3月期第1四半期 52円43銭 2024年3月期第1四半期 49円77銭

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	146,903	57,566	36.2
2024年3月期	117,779	52,837	44.8

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 53,172百万円 2024年3月期 52,789百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	17.00	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	124,000	40.0	5,400	51.7	5,500	49.6	2,000	5.9	53.57
通期	270,000	50.0	15,000	80.2	15,200	64.2	5,700	16.8	152.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社 (社名) 第一三共エスファ株式会社、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	38,902,785株	2024年3月期	38,902,785株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	1,527,919株	2024年3月期	1,580,709株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	37,335,568株	2024年3月期1Q	37,141,752株

(注) 自己株式数には、従業員持株会専用信託口の所有する当社株式を含めて記載しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(その他特記事項)

決算補足説明資料については、適宜当社ホームページに掲載いたします。

<https://www.qolhd.co.jp/ir/library/supplementarymaterial.html>

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更に関する注記)	12
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2024年4月1日～2024年6月30日)におけるわが国経済は、経済活動の正常化や雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復が見られました。しかしながら、物価上昇に伴う個人消費の減速等、景気の先行きにつきましては、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループは、このような大きく変化する事業環境においても、患者さまにいちばん近い会社であり続けることを目指しており、「質の向上」「規模拡大」「更なる成長」という三つのキーワードを掲げ、全事業一体となって取り組んでおります。

2024年4月には、第一三共エスファ株式会社の株式を追加取得し、連結子会社化いたしました。薬局事業とのシナジーを活かすとともに、医薬品に集中特化することで、中期目標に向けて更なる成長を実現してまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループ連結業績は、第一三共エスファ株式会社の連結子会社化(株式保有割合は51%)により、売上高61,036百万円(前年同期比40.6%増加)、営業利益2,915百万円(前年同期比55.6%増加)、経常利益2,966百万円(前年同期比52.9%増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は843百万円(前年同期比16.6%減少)となりました。また、EBITDAについては、4,837百万円(前年同期比54.2%増加)となりました。なお、四半期純利益は1,434百万円(前年同期比42.3%増加)となりました。

(参考) 当第1四半期の進捗

(百万円)

	当第1四半期計画 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期実績 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	達成率
売上高	60,873	61,036	100.3%
営業利益	2,159	2,915	135.0%
経常利益	2,209	2,966	134.3%
四半期純利益	892	1,434	160.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	573	843	147.1%

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを、「保険薬局事業」「医療関連事業」の2区分から、「薬局事業」「BPO事業」「製薬事業」の3区分に変更しております。そして、「医療関連事業」に従来区分していた医薬品製造販売事業を「製薬事業」に移管しております。そのため、「BPO事業」「製薬事業」についての、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

※BPO: Business Process Outsourcingの略

① 薬局事業

薬局事業においては、M&A、新規出店及び在宅・施設調剤の推進による規模の拡大、生産性向上による利益の最大化、及び次世代薬局等のデジタル化による患者さまの利便性向上により、質の向上に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間において、出店状況は、新規出店9店舗、子会社化による取得18店舗の計27店舗増加した一方、閉店により1店舗減少した結果、当事業全体で店舗数は946店舗となりました。今後も付加価値の高い薬局を展開していくために、戦略的なM&Aや新規出店により規模の拡大を図ってまいります。なお、2024年5月に、調剤薬局18店舗を運営する有限会社ダイナの株式を取得し、この取得をもって山梨県へ初展開となります。今後も全国に安心・安全な医療を提供することを目指してまいります。

薬局運営においては、新たな事業の柱としている在宅・施設調剤において、在宅調剤の全店実施に向けて取り組むとともに、業務効率化に取り組むことで受け持つ施設数を大幅に増やしてまいります。

また、調剤報酬以外の収益を拡大するために、サントリーウエルネス株式会社等との協業を通じて、未病領域への取り組みを拡大してまいります。

昨今の物価上昇の状況を踏まえ、社員が安心して生活を送り今まで以上に良質な医療提供ができるよう、2024年4月に給与水準の引き上げを実施いたしました。これからも、電子処方箋、オンライン服薬指導を始めとした患者さまへの新しいサービスの充実を図ってまいります。

業績につきましては、前期に実施したM&Aや新規出店の寄与と在宅・施設調剤の推進等により、受付回数が増加した一方、仕入れや人件費等の運営コストが増加いたしました。また、調剤報酬改定に伴い6月から技術料単価が上昇しております。

その結果、売上高は41,081百万円（前年同期比3.9%増加）、営業利益は1,630百万円（前年同期比32.7%減少）となりました。

② BPO事業

BPO事業においては、引き続き主力事業であるCSO事業、紹介派遣事業、出版関連事業の規模を拡大してまいります。

CSO事業においては、MR派遣需要の拡大により、派遣数が増加いたしました。今後も、医療現場からの多様化するニーズに応じていくために、幅広い経験を持つ人財を採用し専門領域MRの育成に注力するとともに、医療の発展に即した様々な領域の営業も受託してまいります。

紹介派遣事業においては、特に薬剤師の紹介派遣に関して、営業の業務分業化等の各種取り組みにより、生産性が向上し成約件数が増加しております。また、前期より新たに開始した医師・看護師事業についても、着実に進捗しております。

出版関連事業においては、既存の資材制作事業に加え、コンベンション事業やコンプライアンスサービス事業等が拡大しております。

その結果、売上高は3,464百万円（前年同期比3.7%増加）、営業利益は575百万円（前年同期比65.1%増加）となりました。

③ 製薬事業

製薬事業においては、第一三共エスファ株式会社のグループ化に伴い、更なる成長を目指します。

製品ラインナップについては、AG製品を中心に拡充してまいります。また、MRの情報提供に当社グループの知見を活かすことで、医療関係者や患者さま目線の情報提供を行い、販売数量を拡大してまいります。

供給状況については、AG製品が中心であることから安定しており、医療機関の新規採用数も増加しております。また、2024年6月には、ジェネリック医薬品1成分2品目（ゾニサミド）を新発売いたしました。錠剤への両面インクジェット印刷等、薬剤取り違い防止による薬剤師の負担軽減や、患者さまの飲み間違い等による医療事故防止のために、製剤・包装表示の工夫を行っております。また、2022年12月に発売を開始した、新型コロナウイルス抗原検査キット『テガルナ®スティックSARS-CoV-2 Ag』においても、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大を見据えて、販売促進を引き続き行ってまいります。

その結果、売上高は16,490百万円（前年同期515百万円）、営業利益は1,605百万円（前年同期△21百万円）となりました。

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

※CSO：Contract Sales Organizationの略

※MR：Medical Representativeの略

※AG：Authorized Genericの略

（参考）報告セグメントごとの状況

		前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減率 (%)
薬局事業	売上高	39,547	41,081	3.9
	セグメント利益	2,422	1,630	△32.7
BPO事業	売上高	3,341	3,464	3.7
	セグメント利益	348	575	65.1
製薬事業	売上高	515	16,490	—
	セグメント利益	△21	1,605	—
計	売上高	43,403	61,036	40.6
	セグメント利益	2,749	3,811	38.6

（注）1. 各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

2. 当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分により作成したものを記載しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報には、当第1四半期連結会計期間より連結子会社化している第一三共エスファ株式会社の数値は含まれておりません。

詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（セグメント情報等の注記）」をご参照ください。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

① 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、146,903百万円となり、前連結会計年度末から29,124百万円増加しております。

これは主に、関係会社株式が7,714百万円減少した一方、営業権が13,321百万円、のれんが9,652百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が5,034百万円増加したことによるものであります。

② 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、89,337百万円となり、前連結会計年度末から24,395百万円増加しております。

これは主に、買掛金が11,266百万円、返金負債が7,100百万円増加したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、57,566百万円となり、前連結会計年度末から4,728百万円増加しております。

これは主に、自己株式が78百万円減少した一方、非支配株主持分が4,344百万円、利益剰余金が277百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月10日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,282	29,682
受取手形、売掛金及び契約資産	16,909	21,943
商品及び製品	4,849	9,113
仕掛品	129	171
貯蔵品	192	192
その他	3,329	3,374
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	52,690	64,476
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,971	7,457
工具、器具及び備品（純額）	1,448	1,604
土地	6,925	6,947
その他（純額）	936	534
有形固定資産合計	16,281	16,544
無形固定資産		
のれん	32,133	41,786
営業権	—	13,321
ソフトウェア	798	776
その他	204	220
無形固定資産合計	33,136	56,103
投資その他の資産		
投資有価証券	132	136
関係会社株式	7,714	—
敷金及び保証金	4,061	4,093
繰延税金資産	2,164	2,261
その他	1,618	3,308
貸倒引当金	△21	△21
投資その他の資産合計	15,670	9,778
固定資産合計	65,089	82,426
資産合計	117,779	146,903

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	22,098	33,365
短期借入金	—	4,003
1年内返済予定の長期借入金	8,155	7,806
未払法人税等	2,197	357
賞与引当金	2,436	1,458
返金負債	—	7,100
その他	3,935	9,288
流動負債合計	38,823	63,381
固定負債		
長期借入金	23,477	21,644
繰延税金負債	302	302
役員退職慰労引当金	31	162
退職給付に係る負債	859	880
資産除去債務	1,093	1,160
その他	353	1,804
固定負債合計	26,118	25,955
負債合計	64,941	89,337
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,786	5,786
資本剰余金	11,276	11,301
利益剰余金	38,030	38,307
自己株式	△2,303	△2,224
株主資本合計	52,790	53,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	1
その他の包括利益累計額合計	△0	1
非支配株主持分	48	4,393
純資産合計	52,837	57,566
負債純資産合計	117,779	146,903

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	43,403	61,036
売上原価	37,730	51,886
売上総利益	5,673	9,149
販売費及び一般管理費	3,799	6,234
営業利益	1,873	2,915
営業外収益		
受取家賃	30	37
受取手数料	48	14
保険解約返戻金	—	25
補助金収入	2	2
受取保証料	14	14
助成金収入	9	6
その他	23	36
営業外収益合計	128	136
営業外費用		
支払利息	25	46
賃貸費用	17	17
その他	19	21
営業外費用合計	62	86
経常利益	1,940	2,966
特別利益		
固定資産売却益	0	4
特別利益合計	0	4
特別損失		
固定資産除却損	12	24
固定資産売却損	3	4
段階取得に係る差損	—	214
その他	—	10
特別損失合計	16	254
税金等調整前四半期純利益	1,923	2,715
法人税等	915	1,280
四半期純利益	1,008	1,434
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	591
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,010	843

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	1,008	1,434
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	2
その他の包括利益合計	1	2
四半期包括利益	1,009	1,436
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,012	845
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	591

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	薬局事業	BPO事業	製薬事業	計		
売上高						
処方箋応需による売上	36,729	—	—	36,729	—	36,729
医薬品製造販売による売上	—	—	515	515	—	515
その他	2,817	3,341	—	6,158	—	6,158
顧客との契約から生じる収益	39,547	3,341	515	43,403	—	43,403
(1) 外部顧客への売上高	39,547	3,341	515	43,403	—	43,403
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	16	91	—	108	△108	—
計	39,563	3,432	515	43,511	△108	43,403
セグメント利益又は損失(△)	2,422	348	△21	2,749	△876	1,873

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額の内容は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

セグメント間取引消去	582
全社費用※	△1,458
合計	△876

※全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	薬局事業	BPO事業	製薬事業	計		
売上高						
処方箋応需による売上	38,081	—	—	38,081	—	38,081
医薬品製造販売による売上	—	—	16,490	16,490	—	16,490
その他	3,000	3,464	—	6,464	—	6,464
顧客との契約から生じる収益	41,081	3,464	16,490	61,036	—	61,036
(1) 外部顧客への売上高	41,081	3,464	16,490	61,036	—	61,036
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	28	327	—	355	△355	—
計	41,109	3,792	16,490	61,392	△355	61,036
セグメント利益	1,630	575	1,605	3,811	△895	2,915

(注) 1. セグメント利益の調整額の内容は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメント間取引消去	656
全社費用※	△1,551
合計	△895

※全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第一三共エスファ株式会社の連結子会社化によって医薬品製造販売業の規模が拡大したことに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを、「保険薬局事業」「医療関連事業」の2区分から、「薬局事業」「BPO事業」「製薬事業」の3区分に変更しております。

また、「医療関連事業」に従来区分していた医薬品製造販売事業を「製薬事業」に移管しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更に関する注記)

当第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であった第一三共エスファ株式会社の株式を追加取得し連結子会社化したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	426百万円	807百万円
のれんの償却額	837	1,114